

ご挨拶

校長の小田 哲也（おだ てつや）と申します。
本校勤務4年目となり、校長として3年目を迎えました。

皆様、本年度も、どうぞよろしくお願いいたします。



本年度、4月7日に第1学期始業式を行い、本年度をスタートいたしました。また、4月9日には、第80回入学式を執り行い、52名の新入生を迎え入れました。
今年1年間、生徒数152名、職員数33名で様々な教育活動に取り組んで参ります。

本校では、校訓「**自主**」「**勤勉**」「**感謝**」のもと、小郡市がめざす、「夢や願いに向かって逞しく進み、人とつながりあって心を働かせ、喜びあふれる豊かな郷土をつくりだす小郡の子ども」の育成を期し、教育活動を進めて参ります。

また本年度は、校区内の小学校と連携を深め、9年間を通して育てていくことを確認し、成長を促していくために、学校教育目標を3校で揃え、以下のように設定しました。

「志をもち、よりよい社会の創り手として未来を拓く子どもの育成」

また、重点目標を

「**「自律」の習慣と「対話」のスキルを活かし、協働の良さを理解できる生徒の育成**」
と設定いたしました。

現在、私自身が危惧していることは、「人との関わりを避けて生きていこう」とする子どもたちが増えているのではないかとことです。マスクをして、人との接触をなるべく避けた数年が経過し、子どもたちのコミュニケーション力の低下を感じるが増えてきました。明確な理由も無いけれど、不安を訴えて、学校を欠席する、そんな子どもたちが増えています。

私は、義務教育の目標は「社会的自立」にあると考えています。

「社会的自立」には人それぞれの形があると考えていますので、どのようなものが正解であるとは言えませんが、義務教育を終える15歳の時に、「高校進学」を選ぶのか「就職」を選ぶのか、きちんと本人自身で選択することができる力を育てておきたい。そして、成人を過ぎたころに「社会人」として一人で生活を立てることができるようにしたいと考えています。そのためには、人と関わり、協働する中で、信頼関係を構築するような経験が大切だと考えています。「協働の良さ」を理解するということです。

保護者の皆様には、中学校生活を終えた先のゴールは「高校進学」だけではないことや、最終的には、本人が「社会の荒波」を乗り越えていくことができる力を育んでおくことが肝要だと知っておいてください。

また、中学卒業後は、親以外の他者を信頼しつつ、他者からの信頼を得る力が必要になってくると思います。

子どもたちが自分自身の将来や夢、可能性に対して希望を抱き、自分の成長や変化を実感しワクワクすることの出来る、魅力ある学校づくりを推進していきます。引き続き、宝城中学校に対する皆様方の温かいご支援をお願い申し上げ、ご挨拶いたします。